



発行 信太山に里山自然公園を求める連絡会

連絡先 NPO 法人信太の森FANクラブ 0725-44-8404 e-mail : hanaizm@ares.eonet.ne.jp



今年も飛来したコウノトリ (2013/8/09)

写真：吉原（FANクラブ）

8月9日、10日、11日と大野池畔に今年も飛来しました。足環は0023で昨年も飛来し、フミチャンとよばれた2010年生まれの子です。大野池を管理する光明池水利組合もコウノトリの飛来に大きな関心を寄せているとのこと。残念ながらこれ以降の確認はありません。

信太山丘陵市有地の保全・活用について ワークショップが開催されます

第1回 10月29日(火)am9:30~

〈ワークショップ〉

今年2月（2013年2月）、市長より諮問された「信太山市有地保全活用検討委員会」が「基本方針」を答申しました

それによると、信太山丘陵の特性を踏まえて、

- ① 自然と歴史を継承
- ② 自然と織り成す里山的環境を再生
- ③ 多様な生物の生息・生育環境を守る。として、市民の憩いの場、自然体験の場、環境学習の場として整備する。その事業を進めるにあたって公民協働による息の長い取り組みをすすめることとしています。

そして、基本方針の具体化のために、市、専門家、公募市民からなるワークショップを早急に設置検討をすすめることが必要であると提言しました。

この「基本方針」は私たちが求めてきた「信太山に里山自然公園を」という願いと大筋に於いて同じ方向を示していると判断し、歓迎しました。

藪化・乾燥化が進む信太山丘陵の現状を踏まえ、答申が述べているように早急にワークショップの開催を具体化するよう市の担当部署に要望してきました。

やっと、7月に公募があり、専門家、地元代表

も選定され、2013年度（平成25年）と2014年度（平成26年）の2年間にわたって、約9回ほどの予定で開催されることになりました。その第1回が10月29日に開催されます。

〈ワークショップの会員〉

市が選定したワークショップの会員は以下の通りです。

学者・専門家（4名）

増田 昇（大阪府立大学大学院生命環境科学研究科教授）

内田 敬（大阪市立大学大学院工学研究科教授）

巖 圭介（桃山学院大学社会学部教授）

藤原宣夫（大阪府立大学大学院生命環境科学研究科教授）

公募市民（5名）

田丸八郎、三輪健一郎、

梁取征弘、小松 修、花田茂義

地元代表（3名）

鶴山台中地区自治会代表 鶴山台西地区自治会代表

山ノ谷自治会代表

和泉市（4名）

政策企画室、環境保全課、公園課、道路課

- * 公募市民は、定員5名を超える応募があり審査の結果数名が欠員補助となったようです。（数字の発表はなし、事務局の調べでは3名確認）

〈コンサルが確定しました〉

株式会社 空間創建（本社京都）

基本構想支援事業として入札が行われ、株式会社空間創建が決まりました。その業務として、次のようになっています。

和泉市信太山丘陵市有地の里山的環境と生物多様性を公民協働で守り育て、市民の憩いの場、自然体験の場、環境学習の場として活用する都市公園（都市林）として整備するため、平成25年度から自然の変化に順応的に対応しながら公民協働による環境保全活動に息長く取り組んでいくと共に計画段階から市民が参画するワークショップを開催し、様々な意見を得ながら基本構想の策定に取り組む。

「環境保全活動、ワークショップを開催し基本構想を策定する」と定めているようにワークショップをはじめ基本構想策定に大きく関わるといったことのようにです。

〈ワークショップの目的〉

基本方針では、ワークショップの目的を次のように掲げていました。

- * ゾーニングの検討（植生の将来像とともに利用や管理のあり方を踏まえたゾーニング）
- * 今後の管理運営形態の検討
- * 整備方針の検討（現地調査、保全活動、大型樹林管理の方向性など）

さらに、基本方針を具体化する上で以下の課題もワークショップの中で検討されるものと考えられます。

- * 必要な施設など（管理棟、駐車場、休憩所、トイレ、案内板、園内道路など）
- * 信太5号線の拡幅について（用地内を市道信太5号線（鶴山台～山ノ谷～山荘）が通り、山ノ谷の鶴山台・信太方面への生活道路の役割を果たしてきた。以前の北部施設整備事業に際し道路の拡幅が図れていた経緯があり、湿地や草地の保全と拡幅の是非について検討課題がある。）
- * 他施設や地域との連携について（聖神社、信太の森ふるさと館、惣ヶ池、信太山野外活動センター、和泉黄金塚など）

ワークショップに傍聴参加を

と き : 10月29日（火）
9:30~11:30

と ころ : 和泉市役所3号館3階
市議会委員会室

* 定員に限りがあります。お早めに

藪化・乾燥化・松枯れなど急がれる保全作業

ワークショップと連携して保全のための協議会を！

〈藪化・乾燥化の状況〉

信太山丘陵の里山的自然環境の特色として

① 大阪府を代表する湿地群、②丘陵部に広がる草原状の草地が挙げられてきました。それらは豊かな生物多様性を育む背景ともなってきました。

しかし、当該地は、防衛省と交換され市有地となる頃より（その準備期間をいれると今からおよそ10数年以前より）放置に等しい状況におかれてきました。（尤も、わずかに該当地内の小径の周辺のみは数回の刈り払いが行われてきました。）また、従前は一般市民の立入が黙認され春や秋などかなりの一般市民が立ち入ることでネザサなどの生長を一定抑えることもありました。市有地化による立入禁止によりそうした作用は激変し、加えてこの間の気候温暖化の影響を受け、ネザサを始めとする雑草・雑木の生長は著しく、コナラやアベマキ、自衛隊の植樹したアラカシ・トウネズミモチなどは樹林を形成してきました。また、特色の一つでもあるアカマツは松枯れがひどく（特に2013年）、樹齢20年以上の比較的高木が次々と枯れていきました。

こうした影響で、かつての草原状の草地はネザサに殆ど覆われ、湧水湿地は、周辺の樹木の生長に伴う地下水の吸水と蒸散の影響か湧水量が減少し、さらに周辺からササ・雑草の侵入を受け乾燥化がすすんでいます。かつて湧水湿地であったところがすでにササ原化したところもあります。

基本方針で示した「里山的環境の再生」の大きな課題はササ原化・藪化・乾燥化をどうくい止め、遷移後退（以前の植生に再生する）させることであろうと思います。できれば、草地や湿地は少なくとも20年、願わくば30年位以前の状況に再生することを目標にできたらと考えています。

ワークショップでの課題として、植生の将来像に関わってゾーニングの中で十分検討され、共通

認識となることが特に大切だと云えます。



かつての草原が2m近いササに覆われている

写真：2013年5月

〈ワークショップでの検討と 保全のための協議会の設置を〉

基本方針では、ワークショップでの具体化の検討と保全活動の必要性を認め、現地での調査活動と実験的に保全活動を行いながら検討と一体的にワークショップを運営すると掲げています。

また、「保全活動を担うNPOも公園づくりの協働の一員と位置づける」としています。

そこで、これから始まるワークショップでは、植生の将来像を見ながら保全作業の方向性を示し、その方向性に基づいて保全作業を計画し、作業を実地し、その結果を記録していくことが組織的・計画的に行われることが大切ではないかと考えます。そのために、基本方針で示されているように市とNPOなど保全に参加できる団体などで協議会をつくり、ワークショップと連携をすすめる、保全計画や実施、結果や順応的变化を共有していくことがとても重要なことだと考えます。

ワークショップと併行して保全を実行するための協議会の設置を求めています。

（文責 花田）

短 信



← ナニワトンボを10年ぶりに確認

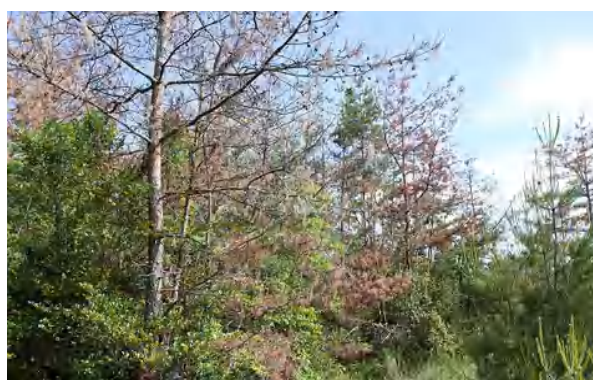
(2013/9/22) 惣ヶ池湿地

写真：田丸

大阪で最初に発見されたことからナニワの名を冠する。♂の色はブルーだがアカトンボの仲間。この日、大野池でも発見したとのことであり、細々と生き延びていたことに感激。ほぼ10年ぶりのことである。準絶滅危惧種（大阪）

松枯れが続く →

数年前から丘陵のアカマツが枯れている。2013年は特に多く、樹齢20年前後の松が殆ど枯れた。いわゆる松食い虫（マツノザイセンチュウ）の被害と思われるが気候温暖化等の影響もあるのかもしれない。倒木の危険があるものも多く、枯木の処理も緊急の課題の一つである。



← 惣ヶ池湿地の保全作業

—2013年10月12日—

NPO法人信太の森FANクラブは、大阪みどりのトラスト協会が管理している惣ヶ池湿地の保全作業に協力している。

里山自然公園を求める信太山丘陵市有地の保全活動への準備の一環として、作業のノウハウを体験している。参加者を募っている。

(奇数月第2水曜日、偶数月第2土曜日

午前9:00より)

観 察 会 案 内



毎月・第4日曜日 午前9:00～12:00



集合：惣ヶ池公園 正門 参加費：200円(保険料・資料代)

主催：NPO法人 信太の森FANクラブ 問い合わせ：0725-44-8404